

しんぶん

赤旗

日刊 ●月 3497円
日曜版 ●月 990円



南地域後援会は本町・寿・緑・若松・栄・白山・船戸・新田がエリア

連絡をいただければ「しんぶん赤旗」の見本を届けます

しらかば

日本共産党我孫子南地域後援会

発行責任者 木村 文次

9月議会報告 傍聴記

高い補聴器購入に市は助成制度を

異常気象で被雷回数が増えている中での質問です。

1つ目は、小中学校の防災(落雷防止対策)について

引き続き、船橋議員は3つの質問をしました。

船橋議員は冒頭、日本原水禁長崎大会に参加の報告を行いました。

広島、長崎の原爆被爆と、ビキニ水爆実験被爆の3度の被害を受けており、日本は核兵器禁止条約に早く批准すべきで、これから反核運動を大いにやっていかなければならないと発言しました。



船橋議員の質問

9月議会は9月1日から9月26日まで開催され、日本共産党市議団の質問は9月9日に行われました。ただし岩井議員は体調を壊し、9月議会は欠席となりました。

①小中学校に雷感知器(雷が接近すると、屋上に設置したアンテナで感

知し赤色灯が回転し、職員室などのブザーが鳴る仕組み)のアンテナは付いているか、設置していないとの回答。

②事故防止のためのチエックリストがあるか、また雷雲が近づいた時のルールはあるか、台風、地震に対応するマニュアルを作成し、行動している。

雷注意報が発令された場合は、屋外部活動の中断や、下校時の避難などの注意喚起を行っている。

雷に対しての屋外から屋内への避難訓練は行っているかと再質問。雷の訓練は行っていない。

いざという時に小学生下級生は怖がって動けない心配があり、雷に対する指導と避難訓練をお願いしました。

2つ目は、都市行政(スケートボードパーク)について

オリンピック競技となり、日本の若者が活躍しているスケートボードですが、多くの子どもたちや親から市内に練習場がないという声が上がって

います。一方、道路やピロティで滑っていると危険、うるさい、通行の邪魔になる、という声が上がっており市内に練習場の設置を質問しました。

①市内にスケートボードができる場所はあるか、また建設予定はあるか、騒音、転倒、接触事故、公園施設の損壊の恐れがあり、相応の用地、周辺住宅への配慮が必要などから現在市に利用できる公園はない、また新たに専用の広場を建設する予定はないと回答。

②近隣市でスケートボードができる所はあるか、松戸市、野田市、成田市の総合公園に設置されていると回答。

手賀沼公園、五本松公園、ゆうゆう公園の片隅にでも設置できないかと再質問。近隣に住宅地があり騒音の問題がある。

スポーツ施設であれば、計画段階から入っていないと消極的でした。

3つ目は、社会福祉行政について

①補聴器購入に助成制度を、県内の実施自治体と助成の内容、また我孫子

市での実施計画はあるか

：現在18自治体で実施。助成は1万から3万円。国が創設すべきで市での助成は考えていない。

実施自治体も増えており、何とか予算を計上して助成を考えて欲しい。市の財源が厳しく助成は考えていない。

錦絵をとおして、出版文化がどのよう



杉村楚人冠記念館では、9月30日から2026年1月12日まで、秋季企画展「出版で広める広がる」を開催しています。

出版で広める広がる 杉村楚人冠記念館秋季企画展

展示では出版の役割や、出版による世の中への情報の広がりについて紹介しています。(緑S)

自分が「何かを伝えたい」ときに取る手段の一つが出版。出版によって伝わる事柄はどんな世の中に広がっていくか。

「出版」と呼びます。自分が「何かを伝えたい」ときに取る手段の一つが出版。出版によって伝わる事柄はどんな世の中に広がっていくか。

日本共産党我孫子市議団のホームページのサイトは <https://jcp-abiko.com/> です。

スマホのQRコードはこちらから。→



(しらかば編集部)

て：国から令和5年から月額1000円加算、さらに今年10月から500円加算される。市独自の追加補助は考えていない。

オオバン

今年は暑い日が続きました。彼岸を過ぎ少しずつ秋らしくなってきましたが彼岸花が咲くのが遅れ、紅葉前に木々が枯れているというニュースを耳にします。▼これから台風季節となりますが、近年台風の発生場所や勢力が最も強くなる地点が日本近海に近づく傾向にあるといえます。▼日本近海の海面水温が地球温暖化に伴い高くなっていることが要因です。温暖化の影響で熱帯域の拡大とともに太平洋高気圧が北側に寄り、それに伴いジェット気流も北に寄るため上空の風が弱くノロノロ台風となります。▼温暖化が進むと台風の発生数は減りますが中心気圧が900ヘクトパスカルを下回り風速55以上の強烈な台風が日本に接近・襲来する可能性が予測されています。▼海面水温と気温の上昇でさらに水蒸気の供給量が増えることで線状降水帯が発生し記録的な豪雨も増加するといわれています。▼いざという時にいつでも避難できるように事前に地域の災害リスクや避難場所と経路の確認、非常用の持ち物を準備しておくことが必要です。▼同時に避難計画や訓練など行政レベルの対応の一層の強化が必要です。(T)

